

第59回 『カレー・ライスが好き』

海上自衛隊では艦艇、航空部隊や学校等そのほとんどが、金曜日（土曜日半ドン）の時代は土曜日であった）の昼食メニューは、カレー・ライスである。牛乳・ゆで卵・野菜サラダ・バナナ付きが定番だが、カレーの味は各部隊ともその調理委員長のこだわりがあり、美味しい。隊員は金曜日の昼食を楽しみにしていて、お代わりを大盛りで食べる者も多々いる。

金曜日の昼のメニューが何故カレー・ライスなのか、色々と言われるが、これは土曜日の昼のメニューがカレー・ライスであった時代の名残りと言え、例えばゆで卵やバナナが必ず付いていることを思えば、週末に生糧品（船に積む生鮮食品のこ）と。牛乳、卵、野菜、果物、肉等の在庫処分をして、月曜日に新しい生糧品をたっぷり補給

から、食事をパンや野菜・肉食中心のメニューに替え、今日でいうビタミンを摂取することを提案したので。そして明治17年には、軍艦「筑波」

による遠洋練習航海で兵食の比較実験を行い、脚気患者なしという成果を収め、原因は栄養にあるとの確信を得た。脚気の主因が白米中心の食事にあることを知った帝国海軍は、イギリス海軍の食事を手本に、西洋料理を兵食に採用するという規則を、明治23年に定めている。その中で主食を白米からパンやビスケットとし、おかずはシチューやスープ中心に変更した。そのため白米を楽しむにしていた兵士から、不満が続出したとの記録もある。

海軍は食材の改善を重ねるうちに、香辛料のカレーパウダーを入れたビーフシチューを作った。しかし兵士がパンやシチューに馴染めなかったため、カレー味シチューにとろみ付けをして、麦飯にかけたカレー・ライスを生み出

するためであった。またカレー・ライスなら調理委員の手間が掛からず、使用する食器も少なくて早く仕事を終え休養が取れる。そうすれば普通の隊員と同じ時間に外出が出来るからだとも。家庭でも奥方が食事を簡単にしたい時や、冷蔵庫の食材を整理したい時などには、カレーがその代表メニューと言われていることから納得がいく。しかし金曜日になった理由は、隊員はカレー・ライスが大好きだからだ。土曜日の昼だと今は休日外出している隊員が多く、カレー・ライスが食べられないと不満が出たのである。

明治の初め白米を主食とした帝国陸



太光寺にて
行者山の出を拝む
初日
（2016/1/1）
広島・行

したのだ。海軍カレーの記録で最も古

いものは、明治22年の「五等厨夫教育規則」に残された「ライスカレーの仕方」と言われている。正式のレシピとして伝わっているものは、明治41年の「海軍割烹術参考書」の中に、ミンチボール、シチュードビーフとともに書かれているカレー・ライスの献立がある。今、舞鶴で売られている「海軍さんの肉ジヤガ」や、横須賀、呉、佐世保で大人気の「海軍さんのカレー」は明治の海軍から受け継いだ味と言える。

このように明治の海軍時代から好まれたカレー・ライスは、高木兼寛海軍軍医総監と関係が深い。日本ではあまり知られていないがイギリスでは、「ビタミンを発見し、脚気の撲滅に貢献した日本人」としてノーベル賞級の評価

海軍で、一番悩まされていた病気が脚気であったことはあまり知られていない。脚気が戦力に大きな影響を及ぼしていたため、その治療と予防対策が急務とされた。ドイツの学理を重視した東大系陸軍と、イギリスの臨床中心の医学を採用した芝系海軍との間で治療方式に大きな溝が生じ、陸海軍脚気戦争が起った。

森林太郎（森嶋外）陸軍軍医官（後の陸軍軍医総監）は、脚気は脚気ウィルスが原因と言って譲らず、日露戦争で多くの陸軍兵士が脚下で病死したことは残念である。一方海軍はイギリス留学で「疫学」を学び帰国した高木兼寛海軍軍医官（後の海軍軍医総監、東京慈恵会医科大学を創設）が、脚気の原因は食生活にあると主張し対策を実験した。特にタンパク質不足で炭水化物が多い場合脚気が発生していること

で、南極大陸に「高木岬」と命名し、その名を残していることを知って欲しい。カレー・ライスは、今や海上自衛隊だけでなく日本中で子供も大人も食べている。日本人はカレー・ライスが大好きだ。

「通風機 運ぶ匂いで 曜日知る」
（艦隊勤務）

文・絵 古庄幸一

text&illustration by Kouichi Furusho

Profile

【略歴】

- 1969年 4月 海上自衛隊に入隊
- 1974年 12月 佐世保地方総監部副官
- 1990年 8月 海上幕僚監部監理部総務課広報室長
- 1997年 12月 練習艦隊司令官
- 1999年 12月 第21代阪神基地隊司令に就任
- 2001年 3月 第28代護衛艦隊司令官に就任
- 2002年 3月 第30代海上幕僚副長
- 2003年 1月 第26代海上幕僚長に就任
- 2005年 1月 退官
- 4月 株式会社NTTデータ 特別参与
- 2012年 5月 総合海洋政策本部参与
- 2014年 8月 株式会社NTTデータ退職

